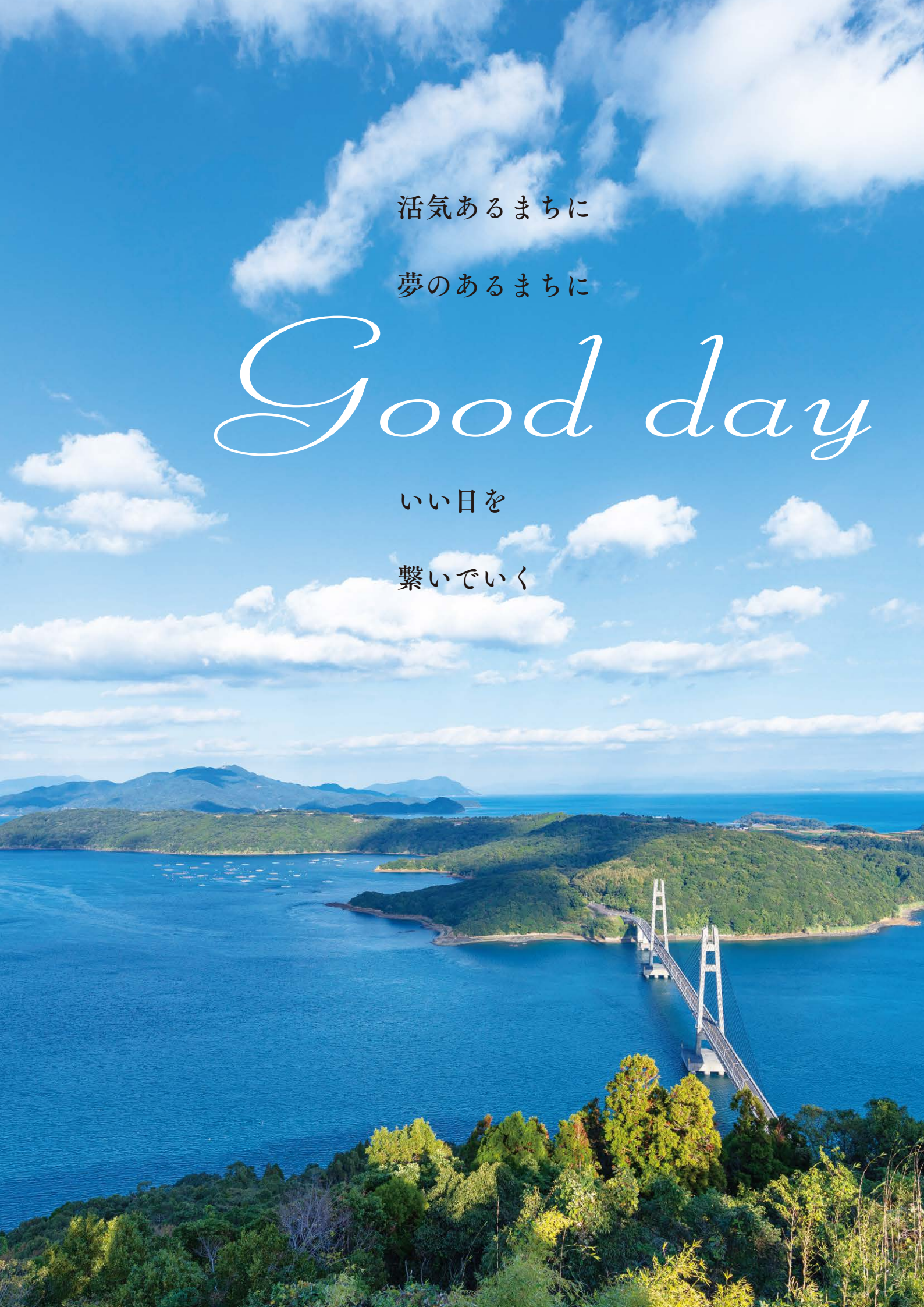
かごしま

長島町

2023年
町勢要覧




活気あるまちに
夢のあるまちに
Good day
いい日を
繋いでいく

2019年12月1日、世界はこの日から数年にわたり、世界中で蔓延した新型コロナウイルスに見舞われます。
私たちのふるさとも、感染や経済的打撃を被り、一様に疲弊した日々が続きました。
行政のできることを最大に、かつ、限りなくスピーディーな対応で町民のみなさんと闘ってきました。
2023年春。やっと復調の兆しが見え始め、耀いていた笑顔が咲き始めようとしています。
ふるさとは強い、ながしまは元気と活気と夢あるまち。
笑顔の分だけその魅力が大きく花開くのです。そして、多くの人といっしょに歩んでいます。



Good day Nagashima

笑顔の分だけ 島は咲く

CONTENTS 目次

page

町長メッセージ —— 4



Welcome

人波寄せる魅力島「情熱イベント」 —— 6
風光明媚 観光・食・歴史 —— 10
地の利・人の和・恵の島 特産品紹介 —— 12



Life

海に生きる・海を活かす 水産業 —— 16
かけがえのない土壌で育てる「長島ブランド」 農業・畜産 —— 18
活気ある「もの・まち」づくり 商工・林業 —— 20
豊かな自然の中で育む、かがやく個性とふくらむ希望 学校教育 —— 22
未来へ繋ぐ、ふるさとの伝承・交流 社会教育 —— 24
一人ひとりに健やかな毎日をサポート 医療・福祉・保健 —— 26
生活・産業・観光ルートの利便性と安全確保 道路・交通 —— 28
守る・防ぐという使命 環境・防災 —— 30
町民一体となったまちづくり 行政・議会 —— 32



Islands

繋がる有人３島
赤土はこの島の宝物～伊唐島 —— 34
海の恵みはこの島の宝物～諸浦島 —— 36
絆はこの島の宝物～獅子島 —— 38
架橋への前進 —— 40
季節の花がおむかえ！花咲き島 —— 42



to Future

ながしまミライ・ニナイ～interview～
●ぶり奨学金を活用して帰島…浦底真菜実さん —— 44
●高齢者福祉に生きる、まちに活きる…大平怜也さん —— 46
●移住そしておもてなしの寄りどころ…小﨑彰子さん —— 48
●獅子島から未来へ架ける…山下 城さん —— 50

データでみる長島町 —— 52
ながしまを舞台にした映画2作
長島町のシンボル

一人ひとりが輝き続ける魅力あふれる長島を目指して

なせば成る それが島の気概。

NAGASHIMA SPIRIT



長島は昭和42年の異常干ばつや、悲願であった昭和49年黒之瀬戸大橋架橋、平成8年伊唐大橋架橋など、幾多の困難を町民一丸となって乗り越えてきた。
「有法子」。とんな場面でも必ず打開策はある。町民の一致団結した精進に感謝し、未来永劫、次世代に引き継いでいくためにこの龍に願いを込めています。

建立地：長島町指江サンセットの丘



長島町長
川添　健

平成18年3月20日に、東町と長島町の2町が合併し、新「長島町」が誕生してから本年で17年目を迎えました。

これまで順調に政策を進めることができておりますのも、町民の皆さまのご理解とご協力のおかげと深く認識しております。誠にありがとうございます。

合併20年の節目を目前に、これまで以上に町民の皆さまが生活の中で満足感や充実感を得て、誇りの持てるまちづくりを進めていきたいと考えております。

台風や豪雨などの自然災害発生時の危機管理、獅子島架橋・三県架橋の実現、南九州西回り自動車道、阿久根・鹿児島空港間の北薩横断道路の整備は生活の充実や観光の発展に希望を抱かせてくれます。

「ながしま造形美術展」や「おさかな祭り」などの長島町ならではのイベントとフラワーロードに咲き誇る花々、ブリやバレイショなどの豊かな自然の恵みを生かして、人と人が直接交流することで、農業・漁業など産業の振興をこれまで以上に図ってまいります。

町民の皆さまと一致団結して、子どもにはわくわくする「夢」を、働く人々には生き生きとした「活力」を、子育て世帯や高齢者、弱者には一人ひとりを大切にする「福祉の充実」したまちづくりにまい進してまいります。



2021年度国土交通省「地域づくり表彰」で
ぐるっと一周フラワーロードの取り組みが
審査会特別賞を受賞

人・ゆめ・自然・活力…すべての宝を繋いでいく。









長島トライジョギング

夢追い長島花フェスタ





長島おさかな祭り



長島サマーイベント

Welcome to the event in Nagashima Town

喜びがある
驚きがある
楽しさがある。

楽しむ





じゃがいも祭り







つわぶきウォーキング





すいせんウォーク

















風

〈ながしまの観光巡り〉



サンセットの丘　展望デッキ



View Spot 長島八景

Enjoy the wonderful views of the Nagashima



ながしま風車公園

東シナ海を望む風光明媚な小高い丘に設置された町の風力発電用風車がある公園です。近辺にはいろんな施設があり、春の花フェスタや焼酎祭りの会場にもなってにぎわいます。



長崎鼻灯台公園

一面のじゃがいも畑を海へ抜けると眩しい太陽、青い海と空、白い灯台が迎えてくれます。静かに潮風に吹かれながら、優雅な時間を過ごすのはいかが。そんなひとときを惜しみなく過ごし、波のBGMで迎える一日のクライマックス。黄金色に染まる空と夕陽、そして灯台のシルエット。ときどき、こういう感動もいいね。



かごしま よかとこ100選

上り浜・汐見の段々畑

国道389号線を指江方面へしばらく走り峠を越えた途端、目の覚めるような青い海原と海岸から山頂に向い営々と築き上げられた段々畑が見えてきます。「かごしま よかとこ100選」に選出された「上り浜・汐見の段々畑」は自然の美しさと長年にわたる先人たちの労苦が生み出したやさしい風景です。



かごしま よかとこ100選

針尾公園

展望台から北を望めば、雲仙天草国立公園が視界いっぱいに広がり、眼下に広がる「薩摩松島」の景観は感動もの！伊唐大橋を眺めるにも最適な場所です。天気の良い日には、長崎の雲仙普賢岳だって望めます。また、新しくなったトイレは外観だけでなく内部からも絶景を眺めることができます。この『針尾空中展望トイレ』は眺望日本一のトイレを目指しています。

光



サンセットの丘”Flowers of HIKARI”
東シナ海を臨む丘に約10万球のイルミネーションが彩られ訪れた人を楽しませています。
丘の斜面では一面に青や白のチューリップなど、およそ5000本のアートフラワーが色とりどりの光を放っています。



行人岳〈ぎょうにんだけ〉

長島の中央にそびえる標高394mの山岳信仰の地です。伊唐島、獅子島や天草の島々が目の前に広がり、山頂には不動明王と蔵王権現を祭った廟があり、訪れる人々が自由に鐘を撞いて家内安全、無病息災を願います。
また出水からシベリアに向かうツルの北帰行を眼下に見下ろせる場所とあってシーズン中は写真家や観光客でにぎわっています。



赤崎橋パーキング

ちょっと一服と立ち寄れる赤崎橋パーキング。小高い丘を登れば爽やかな空気と心地いい眺めを満喫。春には桜や色とりどりの花々が咲いていますので、お弁当を持って行けばお花見も楽しめます。



風車の丘

毎床牧場近くの山頂付近にある展望台。間近に高さ116 メートルの巨大な風車が数多く見られます。また、不知火海を眺め、お天気次第で遠くは新燃岳や紫尾山も見ることが出来ます。ハッピーポイントの鐘を鳴らして幸運を！



うずしおパーク

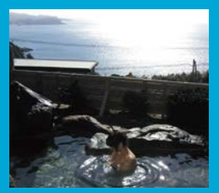
黒之瀬戸は日本三大急潮に数えられる海峡で、古くは万葉集にも歌われた名勝です。その潮の流れと碧い海・青い空に馴染んだ黒之瀬戸大橋を一望出来ます。また、瀬戸港の丘には長田王の万葉歌碑が建てられています。

Good day ながしま時間へようこそ。

島グルメ 温泉 食







海幸宝庫のこの島は、そのグルメを求めて多くの方が食の長島を堪能しています。
また、まちの東西に温泉もあるので1日のんびりするのもまた格別。満足な日帰り旅がながしまにあります。

歴史 史跡 史

古墳の島





長島西岸には小浜崎古墳群や指江古墳群など200基をこえる古墳があり、「古墳の島」といわれています。このことから長島は古代から開け、古墳文化が花咲いたことがわかります。鹿児島県内の古墳の多くは、平野部の中に造られています。一方、長島の古墳は海岸部や海を見渡せる丘陵上に造られています。このことは、海への強い関心を想起させます。

日本人の「みかん」と言えば、「温州みかん」
その発祥の地は、私たちのまち長島



温州みかん原木 三代目



「令和」典拠の「梅花の歌」を詠んだ大伴旅人が黒之瀬戸も詠んでいた。

奈良時代、日本最古の歌集「万葉集」南限の地



特産
made in
NAGASHIMA

まさに 食材宝庫

長島は恵みの島

自然の恵みから、新しい知恵と技を生かした長島らしいものまで
ふるさと納税の返礼品としても、全国の方に喜ばれています。

鰤王 ぶりおう

海峡育ち「鰤王」は、かごしまのさかなに認定されています。
稚魚から4～5kgの親魚にまで育てあげる計り知れない愛情、
そしてその魚を新鮮・安全に出荷する加工技術があってこそ、
初めて生み出されるブランドで、
刺身はもちろん、照り焼きなどさまざまな料理で
食べることができます。
養殖出荷量は日本一で、今では海外へも出荷しています。



赤土バレイショ

長島地区の「赤土バレイショ」は、
平成9年に農産物の「かごしまブランド」として認定され、
良質な赤土から生まれるホクホクとした食感が自慢です。



長島芋焼酎

焼酎王国鹿児島で人気の長島芋焼酎。
恵まれた長島の自然が生み出したまろやかな味わい。
昔ながらの「さつま島美人」をはじめ島内でしか売っていない「島娘」などがあります。





柑橘

柑橘の栽培に適した気候と風土は
発祥の地でもある温州みかんをはじめ、
人気の高い甘夏やデコポン、大将季、ポンカンなど
そのジューシーさは長島育ちならではの魅力です。

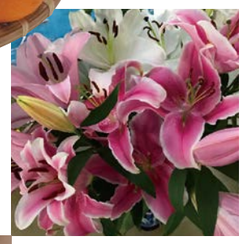




































このまちに湧く

元気力

力あわせ、心かよわせ

夢ある、活気あるまちづくり。今日も笑顔があふれますように。

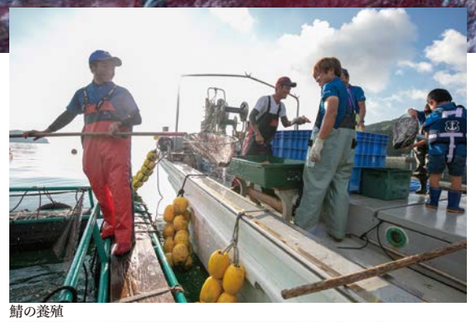
NAGASHIMA Now

海に生きる、海を活かす。

このまちに漲る 元気力
力あわせ、心かよわせ



養殖鰤の水揚げ



鰭の養殖



アオサの収獲

全国から高い評価の魚介類。さらにそのブランド力を高め
後継者・加工技術や次世代漁業の確立を推進しています。









養殖鯛



ワカメの収獲



ヒオウギ貝の養殖



水産業
Fisheries industry



日本全国・世界へ輸出される
長島が誇るブランド魚「鰤王」

農業とともに本町の基幹産業である水産業は、恵まれた漁場と温暖な気候に支えられ魚類養殖を中心に日本一の養殖ブリ産地として発展してきました。現在では、危害発生を予防する高度な品質衛生管理システム「ハサップ」の認定を受け、日本中はもとより、海外にまで輸出するようになり、「鰤王」というブランドの確立が図られています。その他、アオサやヒオウギ貝などの海面養殖も盛んにおこなわれ、育てる漁業が定着しています。

さらに、35kmに及ぶ長い海岸線と入り江に富んだリアス式海岸、外洋に面した自然の好漁場にも恵まれてサバ・アジをはじめ本町の水産業は全国から注目を集めています。

また、マダイやヒラメ、アワビなどの魚介類を放流するなどの資源培養を図ったり、漁港の整備や漁業集落環境の整備をするなど安全で作業効率の良い就業場所や快適性を確保し、若い漁業の担い手の育成に努めています。

このように、養殖漁業・漁船漁業の振興、漁業生産基盤の整備、担い手の育成という4つの柱のもと、消費者ニーズに応える長島産水産物のブランド化の一層の定着化を図る取り組みを続けています。



ヒオウギ貝



ワカメ



サバ



ヒラメ



岩牡蠣



アワビ

かけがえのない土壌で育てる長島産ブランド

長島町は海に面した海洋性の温暖な気候と特有の赤土を生かしてバレイショを中心とした野菜類をはじめ、柑橘類・畜産業などによる農業の振興を図っています。特に、野菜類では赤土の特性を生かした鹿児島県のブランド産地指定も受けているバレイショを基幹作物として、サツマイモ、ニガウリ、オクラ、ショウガ、ソラマメ、ブロッコリーなどの栽培が盛んです。柑橘類では地形を生かした露地栽培による温州ミカンや甘夏、紅甘夏をはじめ、施設栽培による不知火、大将季なども盛んに出荷されています。

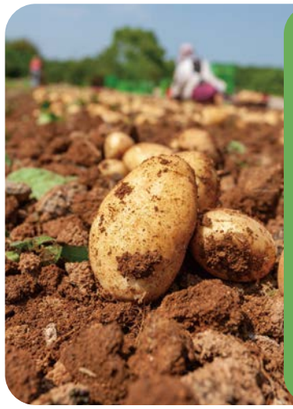
かごしまブランド認定「赤土バレイショ」



1日に120tが処理可能な自動化された大規模な赤土バレイショの選果場

高い品質で人気と需要の高まる柑橘類





農業 畜産

Agriculture & Livestock





紅甘夏

たくましい農業の基盤づくり・環境づくり、時代のニーズに対応した農業振興を掲げながら、さらなる発展を目指しています。

畜産では、かねてより盛んな養豚、養鶏、生産牛、肥育牛に加え、生産から肥育までを一貫しておこなう牛の一貫経営を行う農家も増えています。上記のような多種多様な農業経営を新たに始める創意と意欲に満ちた若い担い手の育成にも力を注ぎ、新規就農者の受け入れ態勢の整備などを進め、近代化や省力化施設・機械などを活用した新しい農業への取り組みが行われています。

また、本町では環境保全への関心が高まる中、化学肥料・農薬の使用量の削減、農業用廃プラスチック類の適正処理、有機農産物などの生産支援、家畜排せつ物の適正処理と利用促進に取り組み、農業の持続的な発展と安心・安全な農産物を生産し、本町農業のイメージアップを図るなど、環境にやさしい農業のさらなる定着化に努めています。



ユリ栽培





さつまいもや野菜栽培



畜産牛



ながしま茶

商工林業

Commerce & Industry & Forestry







鹿児島を代表する人気銘柄さつま島美人をはじめ、島内限定販売の島娘など、5つの蔵でつくられている長島芋焼酎。

芋焼酎の仕込み・製造



田尻小学校の跡地利用をした誘致企業



若い世代の新規起業事業



昔ながらの伝統、黒砂糖づくり

このまちに湧く 元気力 力あわせ、心かよわせ

活気ある「もの・まち」づくり





12月に行われる産業祭

本町の商業は、食料品以外は町外ショッピングセンターなどへ流出しているのが現状ですが、商工会が中心となり「ながしま軽トラ市」などの独自イベント開催などにより集客を図っています。

地場産業においては、代表的なものとして、5つの焼酎蔵があり、その販売を統一銘柄で行っており、着実な品質管理のもと、芋焼酎を生産しています。他にも電子部品工場が立地操業し、工業の中核を形成していますが、本町ではさらなる企業の誘致に率先して取り組んでいます。

また、林業においては町土の59％を占める森林の活用に取り組むため、林道の開設・改良・舗装事業や公有林整備事業、森林整備活動支援事業などを行っています。





毎月開催の茅屋漁港での恵比寿市

古き良き伝承、新しいものづくり、長島らしさを大切に
心がかよう、ふれあいまちづくりを進めています。

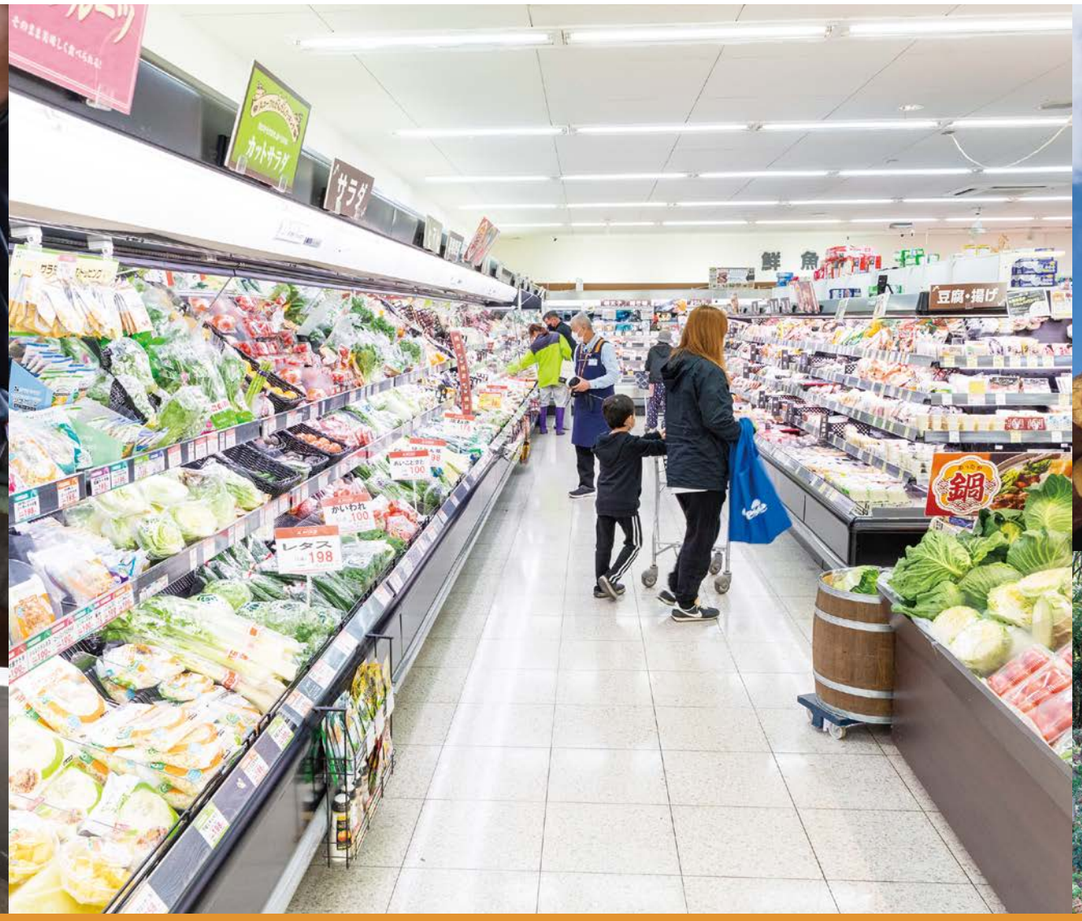


地元事業者と商工会がつくる軽トラ市などのイベント



年の瀬に地元の多くの人で賑わう産業祭「長島フェスタ」













豊かな自然の中で育む
かがやく個性とふくらむ希望






学校教育
School Education

ふるさとに囲まれて、たくましく・やさしく・元気に学ぶ

長島町内には、個性豊かできらりと輝く小学校が7校、中学校が5校あります。教育行政の基本方針である「郷土・長島のもつよき伝統や教育風土を生かした全人教育・生涯学習」の推進のため、学校・家庭・地域・行政は、より一層の連携を図りながら、「豊かな自然の中で活気にあふれ、一人ひとりの個性が輝き、可能性を最大限に発揮する児童・生徒」の育成を目指しています。

特に、学校教育において、基本方針実現に向け、「協働・共育で自立を促す長島の教育」を推進しています。大人の責任としてそれぞれの立場で子どもたちに積極的に働きかけ、子どもたちを共に慈しみ、たくましく育てることを通して、「夢を抱き、決してあきらめず、最後までやりとげる自立した児童・生徒」の育成に努めています。

また、豊かな自然や産業など、長島の学校でしかできない体験や地域の人々と接する教育活動を通して、のびやかで、知・徳・体のバランスのとれた次世代の担い手を育んでいます。








今日の食材は
赤土バレイショ

いつもありがとう、感謝を忘れない
みんな大好き！心のこもった地産地消の給食メニュー

給食センターでは毎日、こどもたちの成長を考えた献立を愛情をこめながらつくっています。また、毎週木曜日の長島産お米を使った長島ごはんや鰤やじゃがいもなどを使った給食でふるさとの恵みをおいしく食べています。







永禄8年(1565年)、非業の最期をとげた島津常陸守忠兼の霊を慰めるため、踊りを奉納したのが始まりと言われ、
毎年8月8日に町内の各集落が種子島踊り、棒踊り、鐘踊り、傘踊りなど代々引き継がれた伝統の踊りを披露。

このまちに漲る 元気力
力あわせ、心かよわせ

歴史・文化の伝承
未来へ繋ぐ、ふるさとの交流

町内一周駅伝大会





社会教育
Social Education

次世代へ文化伝統の継承を大切にする風土があります。



近年、生涯学習に対する意欲が増し、子どもから高齢者まで多種多様となっています。本町でも社会教育関連施設の拡充や学習内容の充実など、学ぶ喜びを感じられる環境づくりを推進しています。また、町民同士のコミュニケーションの場として、各種スポーツ大会や伝統芸能、祭り、イベントなども盛んに行い、地域間交流や世代間交流を深め元気で活気のある町づくりを進めています。いつでも、だれでも、どこでも、学べる・ふれあえる環境を、長島の未来への贈りものとして残していきます。



こどもたちの募金活動





多くの高齢者が参加して行われる
「いきいきシルバースポーツ大会」

心身ともに、いつもいつまでも
学ぶ喜びを未来へ繋いで行きます。



三県架橋の願いと交流を深めるため、天草市牛深港から
長島町までの約8キロを、小中学生が隊列をつくりながら
一生懸命カヌーを漕ぐ「カヌー長島海峡横断大会」練習風景

総合運動公園建設中



観戦スタンドのある全面サッカー場・400m陸上競技場・ソフトボール場など
町内のスポーツ促進やスポーツ合宿等の誘致などに移用でき、令和10年完成(予定)






ひとり一人に健やかな毎日をサポート



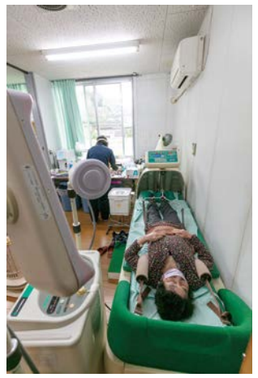
現在町内には、町立の診療所（国民健康保険直営診療所1カ所、へき地診療所1カ所）、開業医院3カ所と歯科医院2カ所があります。離島である獅子島においては、週2回の診療を行います。緊急時に対応するため、救急車は常時3台配備し、地域内外の医療機関との広域的な協力体制も図っています。

また、保健福祉センターを中心に、健康相談、健康教室、母子健診などの健康づくり事業を実施しています。さらに、各集落などで健康診査や健診なども行い、町民の健康づくり、健康意識の向上に努めています。





獅子島へき地診療



獅子島診療の待合所



島内を巡回バスで送迎します。





週2回獅子島での離島診療の様子。寝たきりなどの患者さんには訪問診療がおこなわれています。



町内の保育園は、公立1カ所、私立4カ所、認定こども園2カ所があり園児の受け入れ態勢を整えています。少子化により子どもの数は減少傾向にありますが、子どもたちはのびのび過ごしています。

本町における高齢者については、住み慣れた地域で安心して自立した生活を継続して営むことができるよう、「高齢者一人ひとりが生涯にわたり健康で生きがいをもって楽しく生活できる町づくり」を基本理念に、保健、医療、福祉の関係機関などと連携し、地域全体で高齢者を支える体制づくりを進めています。また、社会福祉協議会をはじめとし、民生委員・児童委員、高齢者クラブ、ボランティア団体、NPOなどを支援しながら、住民が主体的に活動に取り組めるよう、高齢者保健福祉に関するサービスや行政に関する情報を提供していくとともに、住民との協力関係を築いています。



医療 福祉 保健

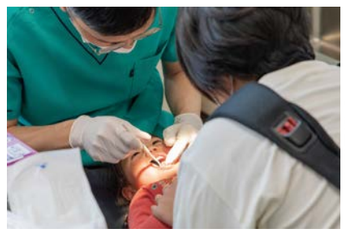
Medical Care Welfare Health



生まれたときから、歳を重ねてもいつまでも、ふるさとで笑顔で安心して暮らせるまちづくり



乳児検診







道路交通
Road & traffic




伊唐大橋


路線バス


町内巡回バス


幼児たちの
交通安全教室


新しくなった天長フェリー「ロザリオ・カーム」の客室



蔵之元港と牛深港を結ぶ三和フェリー


長島の名勝地「行人岳」へ続く、整備された町道行人岳線

生活・産業・観光ルートまで
常に利便性と安全を確保します

本町の重要な幹線道路は国道389号と主要地方道葛輪瀬戸線、長島宮之浦港線で町を周回し、黒之瀬戸大橋を経由して阿久根市で国道3号線と結ばれています。最寄りの駅は新幹線出水駅、肥薩おれんじ鉄道阿久根駅などがあり、期待される南九州西回り自動車道は北は水俣市、南は薩摩川内市までが完成しています。また、町内では通勤・通学など出水・阿久根方面への路線バスがあり、出水駅と蔵之元フェリー乗り場を結ぶ出水・天草ロマンシャトルバスが新幹線・フェリーと接続しています。町内においては、巡回バスが本島内3路線、獅子島1路線で町民の足として利用されています。さらに、本町は有人離島である獅子島があり、重要な交通機関として諸浦港から片側港・熊本県天草市の中田港を結ぶ天長フェリーや幣串・水俣間を結ぶ獅子島汽船が運航しているほか、蔵之元港と牛深港を結ぶ三和フェリーが運航しています。

町民の快適な生活環境を整えるため町道・農道・林道整備などを推進しているほか、長年の夢である獅子島架橋、長島から熊本・長崎へ続く三県架橋の実現へ向けた取り組みも行っており、生活・産業・観光ルートの交通ネットワークの構築を国・地方一体となって推進していきます。

諸浦港から片側港・熊本県天草市の中田港を結ぶ天長フェリー（諸浦港）





幣串・水俣間を結ぶ獅子島汽船


蔵之元港と牛深港を結ぶ三和フェリー






ボランティア活動








町民・来町者の安心安全な利便性を保つために災害復旧事業や景観整備事業など道路事業が行われています。



いざというときのために日頃の厳しい訓練を重ねてきた成果を競う、操法大会

使命を担う





阿久根地区消防組合阿久根消防署東分遣所











環境防災

living environment & disaster prevention



防災無線放送





砂防工事

人をふるさとを守る・防ぐ

町民が安心して暮らす町づくりのためにさまざまな生活環境の整備・改善に取り組んでいます。

消防・防災においては、本部を中心に町内11分団、約300人の団員で24時間体制の中、安心・安全な町づくりのために活動しています。消防団活動の改善として、方面隊制度が導入され、各分団が連携しながら、災害時の迅速な対応と情報伝達ができるような体制を整えています。

また、住宅については、空き家改修をはじめ、各所に設けられた町営住宅により、暮らしをサポートしながら、定住人口の増加のためUターン・Iターンなどの受け入れも行っています。









あらゆる災害等を想定、官民一体となった訓練に真剣に取り組みます



煙が立ちこめる模擬のテントで、実際の災害を想定した体験をする子どもたち



空き家を活用した町営住宅





行政
Administration

町民と一体となったまちづくり

町民一人ひとりの暮らしを支え、サポートしながら豊かなまちづくりを進めます。時代のニーズをとらえながら、相互の信頼関係を築き、そして町民との協力関係を保ち、共生・協働するまちづくりを行います。また、町長相談や女性の声を聴く会なども行い気軽に意見や提言を寄せられる機会の充実を図っています。さらには、安定した財政基盤を確立するという重要課題にも取り組んでいます。



長島町長
川 添　健



副町長
長岡 勇二



教育長
大浦 慶子



指江支所



窓口



職員による庁舎清掃



各課ごとに行う沿道の花植栽

議会
Town council

町民の声を生かしたまちづくり

長島町議会では、議会運営委員会と2つの常任委員会を設けて14人の議員が明日の、そして未来のよりよい長島のために審議を行っています。　議会は町民の代表として町政の仕事に関する議案を審議したり、適切に行われているかを監視することにより、町民のニーズを町政に反映させています。



議長
林　誠 治



副議長
小田 勝志











長島本島と繋がる
有人三島


昔を語れる80歳を過ぎても現役漁師


夫婦、親族でじゃがいもを育てています




名産のタコ

特産ばれいしょは赤土畑から

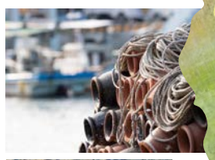
伊唐島
いからじま

Good day
Nagashima
IKARAJIMA

長島本島と伊唐島が橋長675メートルの伊唐大橋によって結ばれたのは平成8年8月。それまでは船での往来が交通手段となっていました。この島には現在116世帯277人が暮らしています。主な産業はなんといっても島の大部分が豊かな赤土の土壌で育まれるばれいしょ農業。そして、鰤養殖をはじめ、アオサやタコ漁などの水産業。こぢんまりとした集落には全校児童14名の伊唐小学校があり、地域の人たちもあたたかく身守りながら学んでいます。


冬から春にかけてのアオサ収穫











小伊唐島




みんなで参加、にぎやか運動会


地域ぐるみで子どもたちを応援！


金比羅宮


港・小学校周辺のみが居住地域

小さな島は、赤土の島。ここで育まれる実りは伊唐の誇り。

土に生きる
Special delicious potatoes grow in the red soil of this island





もう3つの
ながしま



長島海峡の黒潮急潮で養殖される海の恵みは
この島の愛情と情熱で育まれています。

長島本島
と繋がる
有人
三島






長島北端の海幸宝庫の島

諸浦島
しょうらじま

Good day
Nagashima
SHOURAJIMA

長島本島と諸浦島は昭和40年に全長65メートルの乳ノ瀬橋によって結ばれました。この島には現在156世帯381人が暮らしています。この島はリアス海岸のような地形から鹿児島県最大のアオサのりの産地でもあります。そのほかにも鰤をはじめ、アワビやワカメ、岩牡蠣、ヒオウギ貝などの養殖、ウニなど長島の海の幸が集まっており、水産業が主体の島です。以前は島で一番の高台に本浦小学校もありました。


白瀬漁港








諸浦港・葛輪漁港


諸浦港の天長フェリー


本浦漁港


ワカメの加工場


本浦保育園









海に育てる

SMany marine products are produced from this island at the tip of Nagashima


ヒオウギ貝の水揚げ




アワビの養殖





もう3つの
ながしま

長島本島
と繋がる
有人
三島



鹿児島最北端、化石と絶景の島

獅子島

ししじま



Good day
Nagashima
SHISHIJIMA



片側港のモニュメント

獅子島は長島本島とフェリーで結ばれ、現在277世帯643人が暮らす、鹿児島最北端に位置する周囲25kmの島で一部は雲仙天草国立公園でもあり風光明媚な島です。希少な恐竜などの化石が発見されるなど、化石の島とも呼ばれています。恵まれた自然では養殖ぶりをはじめとした海の幸、山々には代々栽培された甘夏畑が広がり、品質のいい柑橘の生産も行われいます。また、幼稚園から中学校までが同じ敷地内にあり、全国でも子どもが増えているめずらしい有人離島でもあります。



諸浦と獅子島を結ぶ天長フェリー



片側集落





獅子島屋



黒崎空中展望所



七郎山山頂展望台



On one of Japan's leading fossil islands,
the bond between people and nature is valued.

神



御所ノ浦集落





真光寺のご住職 合掌





唯一のマート



望洋回廊



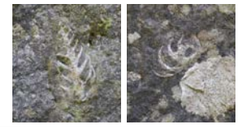
石畳と石壁で囲まれた望洋回廊
窓からは八代海を眼下に望めます



黒崎空中展望所



獅子島神社





獅子島化石パーク
化石発掘体験もできます







獅子島ブランド
の甘夏選果場





幣串漁港





たこつぼ漁やごち網漁、特産のあおさ



























Welcome to ししじま

イベントを通した
心のこもった交流が実を結んでいます。

獅子島には大きな「ゆめ」があります。それは架橋なのです。現在、その実現に向けた夢追い事業の一環として毎年2月に行われている一大イベント「獅子島ウォーク」。片側（かたそば）のアイランドセンターを起点に、獅子島最高峰の七郎山まで約13キロメートルを往復する楽しいウォーキングイベントです。美しい風景を眺めながらのんびり歩けるルートも好評ですが、心のこもった歓迎が大変喜ばれ、毎年参加される方と顔見知りになったり、獅子島の人々とのあたたかい交流を通してこの島の魅力を発信しています。これを機に獅子島をもっと知ってもらい、美しい風景、美味しいものをもっともっと発信する活動を行っています。

2022年に離島振興法の改正が行われ、都道府県による離島市町村への支援の努力義務を新設や「小規模離島」の日常生活に必要な環境維持を図る配慮規定を新設されるなどが明記されました。

これが獅子島にとって追い風となるように、町民一体となって架橋の実現へ向け、新しいステージへと向かっていきます。

南日本新聞の見開きで
掲載された
広告新聞記事



夢をつなぎたい
島の架け橋

架

SHISHIJIMA

What the people of this island want for a long time,
it is to build a bridge

未来への　架け橋実現へ向けて







四季折々に出逢う

花咲き島

ぐるっと一周フラワーロード









毎年4月から5月のゴールデンウィークまで花フェスタを開催しています。会場となる「サンセットの丘」や国道・県道の沿道花壇による「ぐるっとフラワーロード」も花の見所です。









































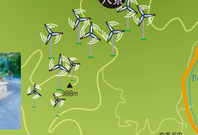












ブーゲンビリアの丘

ハウスの中で色とりどりの鮮やかな
ブーゲンビリアだけを楽しむことができる、
花のまち「ながしま」の新寄り道スポットです。

地域住民、事業所・団体、行政、
さまざまな人が協力しあい、みんなが笑顔になれる、
みんながハッピーになれる花の島を育てています。

Everyone smiles. Everyone will be happy

Nagashima flower road

長島フラワーカレンダー

1月
- 梅
- はなもも
- スイセン

3月
- れんぎょう
- ゆきやなぎ
- みつまた
- こでまり
- もくれん
- ふじ
- 桜

4月
- チューリップ
- カロライナジャスミン
- レンゲソウ
- みつばツツジ
- マリーゴールド

5月～
- わすれなぐさ
- まつばぼたん
- アイスランドポピー
- あじさい
- さるすべり
- さつき
- くちなし

8月
- ひまわり
- 彼岸花

9月～
- ポインセチア
- のうぜんかずら
- つわぶき
- ツバキ
- サルビア
- さざんか
- きんもくせい
- コスモス
- ハイビスカス
- けいとう

いまできること

未来へ繋いでいく 長島ミライニナイ担い ふるさとに活きる力





Interviews with people looking to the future in this town

長島町には、独自の「ぶり奨学金制度」があります。浦底真菜実さんは長島町指江にあるこども園で保育士をされていて、この制度の利用者第1号です。

この制度は、長島町と提携した鹿児島相互信用金庫から借りた「ぶり奨学ローン」を返済する際、奨学対象である卒業生が地元に戻ってきた場合、その返済額が補填される制度で、長島町ならではの奨学金制度となります。日本一の養殖産地である出世魚で回遊魚のブリにちなみ、「成長して戻ってきて」という願いが込められています。「ぶり奨学金」は地元企業・団体・個人の寄附をはじめ、ふるさと納税の寄附の一部が基金となり長島の子育てをみんなで支える仕組みで、全国の地方自治体でも注目となり、以降同様の奨学制度が多く生まれています。

その真菜実さんは生後鹿屋市～長島町～鹿児島市などで小学5年生までを過ごし、以降故郷長島でおばあちゃんと姉妹3人で育ちました。活発な性格もあり、小・中学とバレーボールに打ち込んでいたといいます。

そんな真菜実さんが高校進学を考えるようになったころ、「長女だったので、よく姉妹の世話をするのが、あたりまえでありながらも、楽しくもあったので、自分は保育士になりたいなあ！と思っていました」。

長島は平成19年、高校が閉校し、中学卒業と同時に子ども達は島外の高校に通うか、寮などの生活をしながら親元を離れた高校生活を送ることになります。真菜実さんも長島中学校を卒業し、隣の出水市にある高校で生活文化科保育教養類型という専攻科に入学しました。この時点で真菜実さんの夢は確実に保育士さんになることでした。

「高校ではいっぱいの仲間とともに、卓球部で汗を流したり、ボランティア活動、老人ホーム訪問などで忙しかったですね」と言います。

やがて「高校3年生進路決定の頃、同じ中学校出身で同じ目標を持つ親友と親身になってくれる進路指導の先生とともに、役場を訪ねました。それは、冒頭の奨学金制度ができるというので、詳しく話を聞くためでした」。将来長島に帰ってくる若者を支援するもので、真菜実さんにとって、それは願ったり叶ったりのうれしい制度だったといいます。

真菜実さんは高校卒業後、県内の幼児教育短期大学に進学することを決めていて、「卒業したら必ずこの島に帰ってきて働きたいとずっと思っていたのでうれしかったです」と。

短大卒業と同時に真菜実さんは、念願だった地元の母園でもある認定こども園に就職が決まりました。

少子化といわれる昨今ですが、長島町は全国でも高い出生率を誇っており、真菜実さんが勤めるこども園も、現在約60人の子ども達が元気に過ごしています。真菜実さんは現在1歳児を担当して、幼児のお世話をしています。「清く澄んだ瞳と表情の変化、日々成長する姿に接していられることがなにより楽しく、幸せなんですよ」と話してくれました。

そんな真菜実さんは1年前に郵便局に勤めるご主人と結婚。「でも、結婚式をあげてないんですよね…」と。同じ境遇の方が大勢おられると思いますが、新型コロナウイルスの影響で延期せざるを得なかったらしいのです。

「でも、この6月についにその夢が叶うことになったんです」。今まで以上にしあわせそうな笑顔がこぼれていました。聞けば、小さい頃からじいちゃんや30年以上も新聞配達やヤクルト、地元の食品加工組合サンレディなどをかけもちしながら、必死に本当に一生懸命働きながら私たちを育ててくれた、大好きなばあちゃんに花嫁姿を見せられることがなによりうれしいのだと。「私はじいちゃん・ばあちゃんをはじめ、本当に長島の人や自然、山海の食べものまで大好きで、この島に育ててもらったので、今は少しでもこの島のために出来ることをしていきたい」と真菜実さん。

結婚を機に、ご主人の理解もあって、何か新しい自分を始めたいという真菜実さん。

「私にとって、ぶり奨学金制度はタイミングがよく初年度の利用者となることができました。島の人たちの温かい気持ち・支援、そして今ではふるさと納税からの支援をいただきながら、自分のような若い人たちがもっともっと長島に残り、この島がいつまでも笑顔の絶えない大好きなふるさとであって欲しいと思います」。同じ職場の先輩も「そんな制度があったら、絶対私も使いたかったよ！」とよく言われるそうです。

子ども達の成長する姿を目の当たりにし、自分もまた成長をしたいと願う真菜実さん。いつしか母となって家族とともに長島の未来にしっかりつながっていくことを思い描いていらっしゃるようです。





長島独自の奨学金制度が帰る場所をつくる。
NAGASHIMA YELLOWTAIL SCHOLARSHIP 長島町ぶり奨学金





大切にしたいのは 輝く瞳を育む心

ぶり奨学金を利用して卒業後、
長島で保育教諭をする

浦底 真菜実さん

Urasoko Manami

達者の家で仲良く、つわぶきを使った料理づくり



求めるもの 求められるもの 自分らしく



株式会社ケアクラフトマン
代表取締役
達者の家
大平 怜也さん
RYOYA OHIRA

いまできること
長島
未来へ繋いでいく ミライ ニナイ ふるさとに活きる力
未来
担い

Interviews with people looking to the future in this town



蔵之元港にあるデイサービス「達者の家」



長島町を巡ると、多くの介護事業の看板を目にします。それが、「自分らしく生きよう 達者の家」。この介護サービスの事業を起業したのが、指江在住の大平怜也さん(44)。

怜也さんは、指江で産まれ、長島中学校を卒業後、出水高校へ進学していきます。本人曰く「たぶんですけど、まわりからは変わった子と思われていたと思いますよ、大人の言うことになんで、どうして?ばかり思って口にしてましたからね、素直じゃないんでしょうね」。そんな怜也さん、さほど学生時代のこれといった思い出はないといいつつ「一冊の本が今でも強烈に印象に残っているんですよ」と。その本とは?「"理科なぜどうして"というタイトルの本なんですよ(笑)」。まさに怜也さんのための本でした。

この本こそが、今の自分の原点であり道筋だったのだと気づくことになるとは…。

高校を卒業後福岡の専門学校でグラフィックデザインを学び、同時にバイトや楽しいことに明け暮れていたといいます。そして卒業時期も同じような生活を送っていた矢先、父親から「長島に新しく老人ホームができるから、履歴書を出しておいた、採用試験を受けろ」と。「当時は長島に帰る気は0%でしたね」。渋々ではあったものの縁があり採用決定。怜也さんの老人福祉への1歩が始まったそうです。長く続ける気持ちなど無かったにもかかわらず3年が過ぎ、介護福祉士の資格を取ることに。「そこで勉強を始めて、介護の本当のあり方を学び、なぜ?どうして?の好奇心に火がついたんですよね」。またその2年後ケアマネージャーの資格も取得。やがて、自分でも事業を始めたいとの願望が生まれ、13年勤めた老人ホームを退職後、ケアクラフトマンという会社を設立。つてもあり蔵之元の民家を借りることができ、「その事業の第一歩としてデイサービス達者の家を始めましたね」。「長島でも別れ際などに"達者でなあ!"なんて小さいときから耳にしていたし、達者って2つの意味があって、元気と腕が立つという、会社名とも相通じるものがあったので、命名したんですよ。利用者には元気になって欲しい。スタッフには腕が立つ、真のケアのプロを目指して欲しいと思いましたね」。

今では、訪問看護ステーションや居宅介護支援センター、訪問入浴サービスなど、事業の幅を拡大中です。

6月には長島以外に初めて鹿児島市内にリハビリメインの施設を開所させるといいます。

「長島町の高齢者数は2010年がピークで減少を続けているんですよ。高齢化率は上がりますが、数は減っているのが現状で、事業を続けていくには島外も視野に入れるのは必然なんですよ」。

ましてや、日本の高齢化率は世界でもダントツ。

「自分は拡大志向もあると思うので、必要となれば事業を拡大し、そのスキルを全国・海外で生かすことも可能じゃないかとも思うんです。結果会社が大きくなったところでも、事業の母体・本部が出水郡長島町って何か夢があるなと」。

そんな怜也さんも、これまで事業を続けていると思いもよらない事態や事業継続が困難になりそうなこともあったという。心が折れかけ、「なんでこんなことを始めたのだろう?今後どうしていけばいいのだろう?と悩みましたよ」。

その解決方法として、40歳を機に福岡の社会人大学院で経営学を学び、介護福祉士でありながら、MBA(経営学修士)を取得されています。

長島をはじめ、今後の高齢化社会に向け必ず必要である介護という現場。

「この事業も健全な母体があってはじめて、利用される方、働くスタッフの自分らしい生き方をサポートできるのではないか」と考えた結果だという。

事業はじまりのデイサービス達者の家の蔵之元の民家を訪ねました。

そこには町内各集落からお年寄りが集まり、盛大な長島弁が響きわたり、笑いあり、手仕事ありと、和やかな雰囲気の達者たちの時間が流れていました。

地元で採れた山菜を皆で剥き、孫のようなスタッフに手ほどきをする、まるで家族のように。

傍らでは、その山菜を湯がきお昼ご飯の準備をする方も。気兼ねなく語り合い、時間を過ごす。おのおのが自分らしく生きているのではないでしょうか。

怜也さんが、アメリカで誕生し、今や世界中の企業研修で使われている"ストレングス(資質)・ファインダー(目覚める)"という自己分析ツールを紹介してくれました。質問に答え、診断することで"なるほど"…自分のことをわかり得たことがあったといいます。

結果、怜也さんの強みは「分析思考・未来志向」なのだとか。

「なぜ?どうして?」小学校の頃出会ったあの本は間違いなく運命だったのだと確信したといいます。

ふるさと長島から始めた高齢化社会に向けた介護事業、長島のお年寄りの笑顔とともに、達者なものたちのホームタウンに存在し続けてくれます。



デイサービスでの運動



達者の家いろどり(小規模多機能型居宅介護)





やさしく
海沿いに香る風のように

小﨑彰子さんは、栃木県宇都宮市出身。現在は鷹巣でご主人と小学生の男の子ふたりとともに暮らしながら、指江の道の駅ポテトハウス2階でカフェを営なまれています。長島に移住するまでは宇都宮で生まれ、学校、社会人となっても地元を離れることはなく過ごしていました。

なぜ長島?それはご主人との結婚。

ご主人は茅屋で鰤の養殖業をされています。そのご主人が今の仕事に従事する前に、サラリーマンとして働いていた職場で知り合い結婚されたそうです。もともと家業が養殖漁師ということで、後を継ぐことになり7年前にUターンしたのがきっかけでした。

「まさか自分が漁師の妻になるとは思いもよりませんでした」と微笑む彰子さん。

餃子のまちと有名な宇都宮、言っても生活に不便を感じたことはなかっといいます。が、いざ長島に来て最初に感じたのはやはり不便さと長島弁でした。「そこは致し方ないとおもいつつも田舎暮らしが嫌いというわけではなかったので、違和感はありませんでしたね(笑)」。

ふたりのお子さまも小学生になり、だんだんと自分の時間ができるようにったころ、「短時間でも仕事をしようかな」と主人に伝えたところ、意外な返事があったそうです。「どうせなら、好きなことを始めたらいいよ、たとえばカフェとか」。「私が学生の時からカフェ巡りを楽しんでいることを知っていたので、それを仕事にしてみたどうかと発案してくれたんです。

もちろん、カフェを楽しむことはあっても、実際にカフェでアルバイトをしたり、その知識をもっていたわけではありません。“でも、やってみたい”」。ご主人の協力もあって少しづつキモチを整え準備がはじまったそうです。

まずは場所。「ふたりで場所はどこがいいんだろう?土地や建物を考えるには負担が大きいよね」。そんなことを言い合いながら、いろんな方に相談や情報をいただきました。ある方が「ポテトハウスの上は使ってないからいいんじゃない」。!!?。どこが管理しているかを調べ、町だとわかり早速、なんと川添町長に直談判されたそうです。町長も「長島に人が来てくれたときにカフェがあったら、とてもいい」と言っていただき、早速、改装の準備に入りました。同時にカフェの修行です。やるならお手本のようなカフェで修行したいと思い、見つけた熊本のお店にコツコツ半年以上通いながら、時にはそこのオーナーにも来ていただき指導を頂きながらオープンにこぎ着けたそうです。

落ち着いた内装の店内、窓からは気持ちのいい海が広がり奥には天草牛深の半島が見える絶好のロケーション。ら・ら・らの由来を訪ねたら「散歩の途中で気分良く、何気にでたことば。大人からこどもまでが覚えやすく、口ずさむような感じから生まれたんですよ」。そんなら・ら・ら、「今は、島内の方3〜4割、島外の方が6〜7割にご来店いただいています」。

長島は海の幸グルメを堪能したり、多くのイベントで来島者はあるものの、「ちょっとお茶でも」の場所がほとんどありませんでした。

そんな中のら・ら・ら珈琲の誕生。彰子さんも「おかげで長島でお友達も増えて、いろんな情報をいただいたり、いろんな仕事や活動をされている方と知り合えたりと刺激をもらいながら楽しんでいます」と。

まちの人や観光来島者の憩いの場でありながら「こういう場所もあっていいし、自分もこんなことがしたい、そんなことをおもってくれる若い人が出てきたり、長く続けていくことで、長島にちょっと息抜きに、そんな場所でありたいとこれからも続けていきたいですね」。取材の日のものすでに常連のお客さまが「ここがいきがい」と、お気に入りにスイーツを楽しまれてました。

今は仮住まいとして鷹巣に住み、ゆくゆくはご主人の実家のある茅屋で暮らしていくことを考えているといいます。また母親としては子どもの将来も心配。

「少人数の学校でのびのび育つ環境はすばらしいが、いざ成長するにつれ、荒波にもまれていくんでしょうね」とやさしい母の顔。

理解のあるご主人の言葉から始まったカフェ。長島に何か新しい心地いい風が吹いてきたようなそんな彰子さん家族のストーリーはまだまだ続きます。







いまできること
長島
未来へ繋いでいく ミライ ニナイ ふるさとに活きる力
担い

Interviews with people looking to the future in this town



ら・ら・ら珈琲
小﨑 彰子さん
Akiko Ozaki





島のごちそうでは
来島者に予約で
新鮮な魚料理を
提供している

いまできること

未来へ繋いでいく ミライ ニナイ ふるさとに活きる力

未来
担い

Interviews with people looking to the future in this town



小さな漁村から島の、海の宝を眠らせない





数年前、獅子島のインターネット環境も改善され、
ビジネスの可能性も拡がる

山下城（じょう）さん（36）は、獅子島でも小さな漁村集落の立石で「株式会社島のごちそう」という会社を経営しながら家族5人、ご両親、祖母も一緒に、計8人で暮らしています。立石集落は、7世帯約20人の集落です。

中学卒業後は全員が島を旅立つことが必然となっています。そのため、城さんも熊本県水俣市に下宿しながら高校生活を送りました。

その後、高校教諭を志し長崎の国立大学へ進学しました。大学時代はバレーボールとアルバイトに打ち込みながら、教員免許取得に向け勉強に励んだといいます。しかし、卒業が近づくにつれ、「教諭になる前に民間企業に就職して、社会やビジネスのことを自らの学び、身をもって生徒に教えられる教諭になろう」と決意したそうです。教員免許取得の補講を受ける傍ら、民間企業の就職試験にも臨みました。やるからには皆が知っている大きな会社に入社したかったし、大学の中で一番多い内定を取りたかったといいます。結果、国内外の大手企業10数社から内定をもらい、その中でも、日本を代表するモノづくりとマーケティングを経験したいと某上場企業への入社を決めました。倍率数百倍と言われる就職試験を通過した同期と時には競い合い、時には励まし合いながら、営業の最前線から営業企画、商品企画、マーケティングなど、ものづくりから世の中に流通させる仕組みや仕掛けを学んだそうです。

入社から3年が過ぎた頃、当時お付き合いをしていた奥様と結婚。東京での生活を始めて1ヵ月も経たないころ「中国市場の人材を育てたいから、1年間中国の大学に語学留学に行ってくれないか。うちの事業部でどうしても枠を抑えたいから、明日までに回答をくれ。」と海外への挑戦のチャンスを頂きました。当時は戸惑いもありましたが、このチャンスを逃すまいと当日中に留学を決意したそうです。わずか数カ月の新婚生活を過ごし、単身中国の上海財経大学にトレーニー留学し、大学の寮で中国語の勉強に励んだそうです。

「めざましく発展する中国、その経済の中心である上海。そこでの経験、出会い、そのすべてが刺激的でしたね。」

留学を終え日本に帰国してまもなく、上海にある中国現地法人への出向が決まり、奥様と生まれたばかりの長男との海外生活が始まったそうです。その間約5年間。「世界各国のビジネスマンが集まる上海で毎日刺激を受けながら必死に仕事をこなしていましたね。今思えば、年齢・年次以上に大きな仕事、責任が伴う仕事を任されることが多く、それが自身の成長につながったと思います。また色んな国の方と接し、多様な価値観に触れたことで、自分の仕事に対する考え方、故郷や日本に対する見方も影響を受けたと思います。」

「ただ、ありがたいことに長期の休みも多く、意外と獅子島には頻繁に帰ってきてたんですよね」。鹿児島と上海は直行便があるので東京にいくくらいで着いてしまうらしい。

社会人になって、キャリアを積みいろんな人と関わりを持つ中で、あらためて見直すふるさとの状況。自分が育った場所が帰るたびに船が一隻一隻減り、近隣で廃業の話を聞き、島に残る人が歳を重ねていく。自分の中でふるさとの未来への危機感が募っていったといいます。

当時、多くの起業されている方を見ながら、「自分の力で事業をしてみるのもいいかな」くらいのキモチは芽生えていたそうです。やがて、上海から日本に帰って来る時期になり、「募っていた思いを決断するにはいいタイミングだと思いUターンをする決断をしましたね」。

大都市上海から、こんな不便な漁村に付いてきてくれた奥さまに感謝しつつ、帰ってきて何が一番難題でしたかといいう問いに対し「父でしたね」。「父は家業の漁師を継いでくれることを願っていたんだと思います。でも自分が漁師をしたところで、長島そして獅子島のために何ができ、変化をもたらすことができるのだろうかと思っていたので、最初の頃以外は海に出ることはなくなりました」。

自分にできること、「それはこの場所で獲れた魚介を企画・プロモーションし、販売ルートを確立していくこと。それができるのであれば競争が激しい漁業が関わる食の先行き、低迷する消費に対し島の活性化や雇用・Uターンや Iターンを含めた人の定住につながる」と。帰ってきてから約4年。城さんは独自商品をつくったり、独自のセールスで販路を広げようとし、その活動がさまざまなメディアやドキュメンタリー番組になったり注目を集めています。

「父にも変化が出てきましたね。おかげさまで商品で賞をいただいたり、取り組んでいることがメディアに露出することで少しずつ理解・評価につながっている気がします」。

あと、「この島には以前から獅子島大橋の架橋という大きな夢が掲げられています。実現に向け町をはじめ関係者は懸命な活動をしていただいます。それは生活ルートとしての向上とともに、魅力ある獅子島の基盤もいまのうちから準備していくことは「かなり重要だと考えています」。若い人がこの島に住みながら仕事をして成り立つ。観光面では人をおむかえするための観光素材など、いろんなことが頭をよぎると城さんがいいます。

獅子島という、まだまだ知名度がない島で、独自戦略をしながら、地元の食材を生かすため、さまざまな企業との関わりをもったり、時には「島」というブランドととらえ、他の島の食材を扱ったりとのびしろを拡げていかないといけないと先を見通す。

企業や海外で得たグローバルなビジネス感覚が感じられる城さん。今日も島の外へ向けて、未来へ向けて走り続けています。





父の英輝さん





自身も魚を捌く

獅子島「島のごちそう」
山下 城さん
Joe Yamashita

■令和元年～令和9年度　児童・生徒数・学級数の見込み

単位：人

		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
鷹巣小	児童数	205	192	192	195	204	214	214	209	198
	学級数	7	7	6	9	9	9	9	8	7
川床小	児童数	94	103	110	108	109	108	112	107	96
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
伊唐小	児童数	16	11	14	12	14	16	17	17	17
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3
獅子島小	児童数	33	34	36	39	39	37	42	41	37
	学級数	4	3	4	4	4	4	4	4	4
城川内小	児童数	97	94	82	69	68	67	68	72	78
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
平尾小	児童数	79	68	71	76	75	73	75	75	61
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
蔵之元小	児童数	66	57	55	50	50	45	40	37	32
	学級数	6	5	6	6	4	5	4	4	3
小学校計	児童数	590	559	560	549	559	560	568	558	519
	学級数	38	36	37	40	38	39	38	37	35
鷹巣中	生徒数	109	114	109	126	103	92	89	101	115
	学級数	5	4	4	4	3	3	3	4	4
川床中	生徒数	47	45	41	40	47	50	55	55	63
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3
獅子島中	生徒数	10	13	14	12	14	15	16	16	18
	学級数	2	2	2	2	2	3	3	3	3
長島中	生徒数	84	89	86	88	77	71	64	64	56
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3
平尾中	生徒数	31	35	34	39	33	32	34	34	40
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3
中学校計	生徒数	281	296	284	305	274	260	258	270	292
	学級数	16	15	15	15	14	15	15	16	16
合計	児童・生徒数	871	855	844	854	833	820	826	828	811
	学級数	54	51	52	55	52	54	53	53	51

■産業別・年齢別就業人口

区分／年齢	第一次産業				第二次産業				第三次産業								分類不能産業	総数	構成比（%）
	農業	林業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	計	電気ガス水道業	情報通信運輸郵便業	卸売小売飲食業	金融保険業	不動産業	その他サービス業	公務	計			
15～19	4	1	10	15		3	8	11			4		1	11	1	17		43	0.7
20～24	19	1	28	48		11	25	36		10	22	2		92	10	136	4	224	3.9
25～29	34	1	41	76		18	52	70		12	40	2		157	21	232		378	6.6
30～34	52	2	51	105		34	50	84	2	15	38	3	1	135	24	216		405	7.0
35～39	41	3	67	111		48	64	112	3	21	36	6	2	152	27	246	1	470	8.2
40～44	41	1	65	107		41	60	101	3	16	50	7	2	150	38	266	1	475	8.3
45～49	62		71	133		38	42	80	2	24	39	2	1	135	20	224	2	439	7.6
50～54	96	3	89	188		44	76	120	3	22	31	4		173	41	273	1	582	10.1
55～59	153	1	116	270		92	79	171	3	13	63	3	3	192	42	319		760	13.2
60～64	213	1	117	331		86	89	175	2	20	35	1		134	40	233		739	12.9
65～69	255		74	329		27	29	56	2	11	34	2		64	14	127	2	514	8.9
70～74	176		55	231		5	11	16	0	5	26			16	1	50		297	5.2
75～79	182		37	219		2	4	6			19			6		25		250	4.4
80～84	97		18	115			2	2	2		12			4		18	1	136	2.4
85歳以上	26		2	28							4			2		6		34	0.6
合計	1451	5	841	2306		449	591	1040	22	169	453	32	10	1423	279	2388	12	5746	100.0

（資料：平成22年国勢調査）

■年齢階層別人口

単位：人

年齢＼月	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
0～4	844	684	539	546	488	465	447
5～9	1,042	882	699	555	542	489	474
10～14	1,129	1,031	871	674	551	521	463
15～19	626	609	603	512	389	334	322
20～24	402	436	444	447	342	266	222
25～29	622	473	546	514	469	431	304
30～34	835	645	491	542	503	471	453
35～39	928	875	649	499	522	520	511
40～44	833	945	867	662	483	519	503
45～49	680	814	938	855	666	474	499
50～54	912	681	826	935	871	647	463
55～59	1,170	888	681	826	909	863	656
60～64	1,167	1,120	886	661	820	913	835
65～69	902	1,106	1,088	861	639	809	901
70～74	647	837	999	1,003	805	604	766
75～79	506	547	713	865	860	713	537
80～84	322	358	404	573	665	682	578
85～89	169	174	217	288	386	453	472
90～94	54	65	72	119	140	202	218
95～99	9	13	16	19	51	49	58
100歳以上	2	2	3	2	4	6	15
合計	13,801	13,185	12,552	11,958	11,105	10,431	9,705

※令和2年、合計の人口は年齢不詳者数を含む

■労働力人口及び産業別就業人口の推移

区分＼年次			平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
			人口(人)	比(%)	人口(人)	比(%)	人口(人)	比(%)	人口(人)	比(%)
産業別就業者数	第一次産業	農業	1,801	31.3%	1,618	28.2%	1,451	25.3%	1,252	24.1%
		林業	9	0.2%	9	0.2%	14	0.2%	17	0.3%
		漁業	964	16.8%	863	15.0%	841	14.6%	736	14.2%
		計	2,774	48.3%	2,490	43.3%	2,306	40.1%	2,005	38.6%
	第二次産業	鉱業	－	－	－	－	－	－	－	－
		建設業	590	10.3%	455	7.9%	449	7.8%	379	7.3%
		製造業	665	11.6%	591	10.3%	591	10.3%	517	10.0%
		計	1,255	21.8%	1,046	18.2%	1,040	18.1%	896	17.3%
	第三次産業	電気・ガス・水道業	7	0.1%	14	0.2%	22	0.4%	19	0.4%
		運輸・通信業	165	2.9%	186	3.2%	169	2.9%	164	3.2%
		卸売・小売業・飲食店	542	9.4%	468	8.1%	453	7.9%	421	8.1%
		金融・保険業	43	0.7%	54	0.9%	32	0.6%	35	0.7%
		不動産業		0.0%	6	0.1%	10	0.2%	10	0.2%
		サービス業	1,272	22.1%	1,234	21.5%	1,423	24.8%	1,431	27.6%
		公務	269	4.7%	246	4.3%	279	4.9%	206	4.0%
		計	2,298	40.0%	2,208	38.4%	2,388	41.6%	2,286	44.0%
	その他（分類不能）		11		9		12		5	
	就業者計		6,338		5,753		5,746		5,192	
	国勢調査人口		11,958		11,105		10,431		9,705	

（資料：国勢調査）

地域おこしプロジェクト

長島大陸映画 project





2019



2022

長島を舞台にした映画2作が全国上映！

ふるさと長島を発信！ そして、見直す大きなきっかけに！

長島町の暮らし・文化を伝えていく地域おこしプロジェクト「長島大陸映画」として製作され、子育てをテーマとしている第1作目「夕陽のあと」。地元の協賛企業や町民の協力のもと、制作費および配給宣伝費は寄付金がふるさと納税の対象となるクラウドファンディングなどを使いながら制作しました。子役は町民オーディションから選ばれ、獅子島の松原豊和くんが大抜擢。演技の経験など皆無の豊和くんは俳優陣に混じり堂々とした演技でたいへんいい評価を得ました。その他、約300人の町民がエキストラで参加して盛り上げました。そんな第一作がたいへん好評であった後、「長島町にふたたび映画を」という町民の想いから、2作目となる「私をわかってくれない」が制作されました。町の有志が集い映画の企画、長島町らしい映画を目指しシナリオハンティング、ロケーションハンティングは繰り返し行われました。長島町で初めての取り組みとなった映画制作ももちろんPRに繋がってほしいという願いはありましたが、初めてだらけの映画づくりは大勢の協力者によって支えられて、長島町にかつてない一体感を生み、あらためてふるとを見直すいい機会になり、作品としても2作とも大きな評価を得たものとなっています。



〈CAST〉
キャスト[編集]
貫地谷しほり　山田真歩　松原豊和(獅子島)　永井大
川口覚　木内みどり　渡辺早織　鈴木晋介　宇野祥平　滝沢涼子
監督：越川道夫　脚本：嶋田うれ葉　企画原案：舩橋淳
プロデューサー：橋本佳子　長島町プロデュース：小楠雄士
撮影監督：戸田義久　同時録音：森英司
音響：菊池信之　美術：大倉謙介　衣装：田中美由紀
ヘアメイク：葉山三紀子、加藤まりこ　編集：菊井貴繁　音楽：宇波拓
製作：長島大陸映画実行委員会
制作：ドキュメンタリージャパン　配給：コピアポア・フィルム
©夕陽のあと

テレビや映画館で見る俳優さんと長島町の地域ぐるみで協力しながら、多くの長島の人が出演し盛り上げました。

Two movies set in Nagashima

〈CAST〉
平岡亜紀　花島希美
鈴木卓爾　今井隆文　西元麻子　松本雪乃　山田こはる
四元りな　帖佐弘美　長元信男　和泉ちぬ
監督/脚本/編集：近藤有希　水落拓平　プロデューサー：小楠雄士
撮影：小倉和彦　音響：黄永昌　美術：塩川節子
ヘアメイク：宮崎智子　衣裳：大友あいか
製作：獅子座　制作協力プログクション：SS工房
協力：鹿児島県長島町　配給：フルモテルモ
2022年／日本映画／ビスタサイズ／カラー／5.1ch／100分
©私を判ってくれない

NAGASHIMA SYMBOL



町章

ひらがなの「な」をモチーフに海に囲まれた新町を照らす太陽をイメージしてデザインしました。
躍動する波は、海で囲まれひとつになる2町を表し、活力を生み出すことを意味しています。
[平成18年3月20日制定]



町花 ／ すいせん
（ヒガンバナ科）

すいせんは、長島町の山野や路傍に広く自生しています。純白のすいせんの花は香り高く、純朴な中に誇りを秘めた長島町民の象徴です。
[平成18年10月1日制定]



町木 ／ 椿
（ツバキ科）

椿は長島町の山野に広く自生しています。椿の深紅の花は春の使者であり、長島町民の情熱と希望の象徴です。
[平成18年10月1日制定]



http://www.town.nagashima.lg.jp

NAGASHIMA

発行／長島町役場 総務課　　発行日2023年3月
〒899-1498 鹿児島県出水郡長島町鷹巣1875番地1
TEL0996-86-1111　FAX0996-86-0950